



学校だより



千葉市立
みつわ台北小学校
9月号
(R7年9月1日)

学校に活気が戻ってきました

校長 池内 哲夫

長い夏休みが終わり、子どもたちの明るい声、元気な姿が学校に戻ってきました。笑顔で挨拶をする子どもたちも多くみられ、久しぶりに友達と会うことができるウキウキした気持ちが伝わってきました。教室では、担任の先生や友達と夏休みの出来事について、身振り手振りを添えて楽しそうに話をしている姿が見られました。保護者の皆様や地域の方々のおかげで、子どもたちが充実した夏休みを過ごしたことがうかがえました。ありがとうございました。

夏休みの家庭中心の生活リズムから、学校中心の生活リズムに戻すことはとても大変です。学校では、ゆっくりと子ども一人一人に寄り添いながら生活リズムを戻していきたいと考えています。

一般的に夏休み明けは、登校しぶり等が見られ、不登校になりやすい時期だと言われています。「おなかが痛い」「頭が痛い」など体調不良を訴え、学校に行きたがらない場合には、ゆっくりと話を聞いてあげてください。家庭と学校が両輪となってお子様の成長を支えていきたいと考えていますので、ご家庭で抱え込まず、学級担任にご遠慮なくご相談ください。

また、登校しぶりだけでなく、学校生活や勉強の不安などにつきましても、いつでもご相談ください。

まだまだ、暑い日が続きそうです。熱中症対策、子どもたちの安全や健康に配慮しながら充実した学校生活が送れるよう努めてまいります。今後ご理解とご協力をお願いいたします。

先日、子育て講座に参加しました。その中で子育ての「性善説」「性悪説」「白紙説」という話があり、「あなたはどの説の子育てですか？」と問われました。お話は下記のとおりです。

●「性善説の子育て」

人間は生まれながらに善である。子どもがもっている元々の善が伸びるようによいことがあったら褒める。悪いことをしたら叱る。

●「性悪説の子育て」

人間は生まれながらに悪である。よい行いができるようによいことをしたら褒める。子どもがもっている元々の悪が出ないように悪いことをしたら叱る。

●「白紙説の子育て」

人間は善にも悪にもなる。どちらにも成り得るので、子どもがよい行いができるようによいことをしたら褒め、悪いことをしたら叱る。

どの説でも「よいことは褒めて、悪いことは叱る」というところは共通しています。子育ては、子どもが善悪の区別がつくようにしてあげることが大切ということでした。

また、子どもの話に耳を傾け、「できたこと」や「成長したこと」を具体的に褒めることも大切です。しかし、「できないこと」は見つけやすいのですが「できたこと」や「成長したこと」は見つけるのは難しいものです。そのため、家庭・学校・地域が連携し、子どもたちの成長を支えることが大切だと考えています。